

ベンジャミン・ブリテン：《戦争レクイエム》op. 66

Benjamin Britten: "War Requiem" op. 66

歌詞対訳：三ヶ尻 正（みかじり・ただし／ヘンデル研究・オラトリオ研究）

I. Requiem aeternam

Chorus

Requiem aeternam dona eis Domine,
et lux perpetua luceat eis.

Boys' Choir

Te decet hymnus, Deus in Sion;
Et tibi reddetur votum in Jerusalem:
Exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.

Chorus

Requiem aeternam dona eis Domine,
et lux perpetua luceat eis.

Tenor Solo

What passing-bells for these who die as cattle?
Only the monstrous anger of the guns.
Only the stuttering rifles' rapid rattle
Can patter out their hasty orisons.
No mockeries for them from prayers or bells,
Nor any voice of mourning save the choirs,
The shrill, demented choirs of wailing shells;
And bugles calling for them from sad shires.
What candles may be held to speed them at all?
Not in the hands of boys, but in their eyes
Shall shine the holy glimmers of good-byes.
The pallor of girls' brows shall be their pall;
Their flowers the tenderness of silent minds,
And each slow dusk a drawing-down of blinds.

Chorus

Kyrie eleison,
Christe eleison,
Kyrie eleison.

I. レクイエム・エテルナム（永遠の安息を）

合唱

主よ、彼らに永遠の安息を授（さず）けて下さい。
そして絶えることのない光が
彼らを照らすようにして下さい。

少年合唱

神よ、シオンではあなたにふさわしい贊歌が歌われ、
エルサレムではあなたへの誓いが成就されます。
どうぞ私の祈りを聞いて下さい、
肉体あるものはみな、あなたへと向かって行きます。

合唱

主よ、彼らに永遠の安息を授（さず）けて下さい。
そして絶えることのない光が
彼らを照らすようにして下さい。

テノール・ソロ

家畜同然に死んでいく者にどんな弔鐘が鳴るというのだ？
おどろおどろしい銃の怒りだけだ。
どもったライフルの騒音だけが
彼らの慌ただしい祈りを早口に唱えることができる。
彼らのための祈祷や弔鐘といったざれごとも、弔いの声も、
聖歌隊——泣き叫ぶ砲弾の狂乱した甲高い聖歌隊や
〔出征を〕悲しがる地元から彼らを呼び付ける進軍ラッパを
止ませることはできない。
一体どんなうそくを持てば彼らの幸せを祈るのに
相応しいだろう？少年の手のうそくではない。
ただ彼らの目の中に惜別の聖なる光が輝くだけだ。
少女たちの青ざめた額が彼らの棺を覆う布であり、
彼女たちの花が、もの言えない心の優しさであり、
毎夕のなかなか暮れない夕闇が

〔死人の部屋に〕下がって行くブラインドだ。

合唱

主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

II. Dies irae

Chorus

Dies irae, dies illa,
solvet saeclum in favilla:
Teste David cum Sibylla.

Quantus tremor est futurus,
Quando judex est venturus,
Cuncta stricte discussurus!

Tuba mirum spargens sonum
Per sepulchra regionum,
Coget omnes ante thronum.

Mors stupebit et natura,
Cum resurget creatura,
Judicanti responsura.

Baritone Solo

Bugles sang, saddening the evening air,
And bugles answered, sorrowful to hear.
Voices of boys were by the river-side.
Sleep mothered them; and left the twilight sad.
The shadow of the morrow weighed on men.
Voices of old despondency resigned,
Bowed by the shadow of the morrow, slept.

Soprano Solo

Liber scriptus proferetur,
In quo totum continetur,
Unde mundus judicetur.
Judex ergo cum sedebit,
Quidquid latet, apparebit:
Nil inultum remanebit.

Chorus

Quid sum miser tunc dicturus?
Quem patronum rogaturus?
Cum vix justus sit securus?

Soprano Solo and Chorus

Rex tremendae majestatis,
Qui salvandos salvas gratis,
Salva me, fons pietatis.

II. ディエス・イレ(怒りの日)

合唱

それは怒りの日、
ダヴィデとシビラの預言通りに
この世が灰に帰す日。

何ごとも容赦なく調べ尽くし
裁く方がおいでになるとき、
その震撼はどれほどになるだろう！

驚くべきラッパの音が
全地の墓に鳴り響き
死者すべてを王座の前に呼び寄せるだろう。

死も自然も
被造物たちが復活して、
裁きの場で弁明するのを見て驚くだろう。

バリトン・ソロ

ラッパが歌い、夕方の空気を悲しくした。
ラッパが応えた。聞くも悲しい音だった。
少年たちの声が川べりに響き、
眠りが母親のように彼らをなだめ、夕闇を沈鬱にした。
朝の影が男たちの上にのしかかった。
昔から変わらない古い落胆の声は、
朝の影からお辞儀されると後へ引き、眠りに就いた。

ソプラノ・ソロ

すべてを記した書物が
御前に開かれ、
それによって世が裁かれるだろう。
そして裁く方がお座りになり、
隠されていたどんなことも明らかにされる。
暴かれずに済む罪状など何ひとつない。

合唱

憐れな私は何と弁明すればいいのだろう?
誰を弁護人として呼べばいいのだろう?
義なる者でさえ、その無事は定かでないのに。

ソプラノ・ソロと合唱

救われるべき人を恵み深くお救いになる
恐るべき威厳ある王よ、慈悲の泉である方よ、
どうか私をお救い下さい。

Tenor and Baritone Solos

Out there, we've walked quite friendly up to Death;
Sat down and eaten with him, cool and bland,
Pardoned his spilling mess-tins in our hand.
We've sniffed the green thick odour of his breath,
Our eyes wept, but our courage didn't writhe.
He's spat at us with bullets and he's coughed
Shrapnel. We chorussed when he sang aloft;
We whistled while he shaved us with his scythe.
Oh, Death was never enemy of ours!
We laughed at him, we leagued with him, old chum.
No soldier's paid to kick against his powers.
We laughed, knowing that better men would come,
And greater wars; when each proud fighter brags
He wars on Death – for Life; not men – for flags.

Chorus

Recordare Jesu pie,
Quod sum causa tuae viae:
Ne me perdas illa die.
Quaerens me, sedisti lassus:
Redemisti crucem passus:
Tantus labor non sit cassus.
Ingemisco, tamquam reus:
Culpa rubet vultus meus.
Supplicanti parce Deus.
Qui Mariam absolvisti,
Et latronem exaudisti,
Mihi quoque spem dedisti.
Inter oves locum praesta,
Et ab haedis me sequestra,
Statuens in parte dextra.

Confutatis maledictis,
Flammis acribus addictis,
Voca me cum benedictis.
Oro supplex et acclinis,
Cor contritum quasi cinis:
Gere curam mei finis.

Baritone Solo

Be slowly lifted up, thou long black arm,
Great gun towering toward Heaven, about to curse;
Reach at that arrogance which needs thy harm,
And beat it down before its sins grow worse.
But when thy spell be cast complete and whole,
May God curse thee, and cut thee from our soul!

テノール & バリトン・ソロ

戦地で私たちは親しく歩いて行った。「死」のところへ。「死」と一緒に座って食事した。落ち着いて穏やかに、彼の器からこぼれる食べ物を仕方なく手で受けながら。私たちは彼の息の、むせ返るような緑の匂いを嗅ぎ、目は泣いても勇気が震えひるむことはなかった。彼は私たちに弾丸のつばを吐き、榴散弾の咳をした。彼が高らかに歌えば、私たちは合唱で応えた。彼が鎌で私たちを刈り取るとき、私たちは口笛を吹いていた。おお、「死」が私たちの敵だったことはない！私たちは彼に笑いかけ、彼と仲間になった。古く親しい友。彼の力に蹴って抗(あらが)うために給金を貰う兵士はいない。私たちは笑った、もっと出来のいい奴らが来て、もっといい戦争ができると思っていたから。誇り高き戦士が戦争を自慢するとき、彼は生きるために死と戦うのだ。

軍旗のために人と戦ったりはしないのだ。

合唱

思い起こして下さい、慈悲深きイエスよ、
私のためにあなたが地上に来られたことを。
どうかその日に私を滅ぼさないで下さい。
あなたは私を探して
疲れ、座り込んでおられました。
私を贖(あがな)うために十字架を負われました。
私は被告人のように嘆息します。
私の顔は自分の罪を思って真っ赤です。
哀願する私をお救い下さい、神よ。
マグダラのマリアを救し、
盗人にも耳を傾け、
私にも同じように希望を与えて下さった方よ。
私をあなたの羊の群れに残し、
山羊たちから遠ざけ、
あなたの右に置いて下さい。

不義なる者たちを黙らせるとき、
厳しい炎にくべるとき、
祝福された人々とともに私をお呼び下さい。
私はひざまずき、燃え尽きるほどの悔悟の心で、
あなたに祈り、縋(すが)ります。
私の臨終の時にも心配りをなさって下さい。

バリトン・ソロ

ゆっくり上がり、長くて黒い腕よ。天に向って伸びる、
今にも呪いの声を上げそうな巨大な大砲よ。
お前が痛めつけるべき傲慢の高さまで届け、
そしてその罪がより重くなる前に打ち倒せ。
だがお前が魔力すべてを完全に打ち出し切るときには、
神がお前を呪い、私たちの魂から切り捨ててくれんことを！

Chorus

Dies irae, dies illa,
Solvit saeclum in favilla:
Teste David cum Sibylla.
Quantus tremor est futurus,
Quando judex est venturus,
Cuncta stricte discussurus!

Soprano Solo and Chorus

Lacrimosa dies illa,
Qua resurget ex favilla,
Judicandus homo reus:
Huic ergo parce Deus.

Tenor Solo

Move him, move him into the sun
Gently, its touch awoke him once,
At home, whispering of fields unsown.
Always it woke him, even in France,
Until this morning and this snow.
If anything might rouse him now
The kind old sun will know.

Soprano Solo and Chorus

Lacrimosa dies illa.

Tenor Solo

Think how it wakes the seeds,
Woke, once, the clays of a cold star.
Are limbs, so dear-achieved, are sides,
Full-nerved – still warm – too hard to stir?
Was it for this the clay grew tall?

Soprano Solo and Chorus

Qua resurget ex favilla,

Tenor Solo

Was it for this the clay grew tall?

Soprano Solo and Chorus

Judicandus homo reus.

Tenor Solo

– O what made fatuous sunbeams toil
To break earth's sleep at all?

Chorus

Pie Jesu Domine,
Dona eis requiem. Amen.

合唱

それは怒りの日、
ダヴィデとシビラの預言通りに
この世が灰に帰す日。
何ごとも容赦なく調べ尽くし
裁く方がおいでになるとき、
その震撼はどれほどになるだろう！

ソプラノ・ソロと合唱

それは涙の日、
人々が被告として裁きを受けるために
灰の中から甦る日。
その日にはどうか私をお救い下さい。

テノール・ソロ

彼を運べ、彼を太陽の光の中へ運べ。ゆっくりと。
それに触れて彼はかつて目を覚ましていたのだ。
故郷での、種を蒔く前の畠のささやき、
それがいつも彼を起こしていた、フランスさえも、
この朝、この雪の朝までは。
何かがいま彼を振り起こすことができるとき、
それが何か、優しい昔の太陽なら知っているだろう。

ソプラノ・ソロと合唱

それは怒りの日。

テノール・ソロ

それがどうやって種を目覚めさせるか考えてみよ。
かつて冷たい星の土くれが目覚めた。
よく育った四肢は、神経の行き渡った脇腹は
——まだ暖かいが——硬直して動けないのか？
こんなことのために、土くれは長身に育ったのか？

ソプラノ・ソロと合唱

人々が灰の中から甦る日。

テノール・ソロ

こんなことのために、土くれは長身に育ったのか？

ソプラノ・ソロと合唱

人々が被告として裁きを受けるために。

テノール・ソロ

——おお一体何が、この愚かしい太陽の光をして
大地の眠りを中断させたのか？

合唱

慈悲深き主イエスよ、
彼らに安息を授けて下さい。アーメン。

III. Offertorium

Boys' Choir

Domine Jesu Christe, Rex gloriae,
libera animas omnium fidelium
defunctorum de poenis inferni,
et de profundo lacu:
libera eas de ore leonis,
ne absorbeat eas tartarus,
ne cadant in obscurum:

Chorus

Sed signifer sanctus Michael
repraesentet eas in lucem sanctam:
Quam olim Abrahae promisisti,
et semini ejus.

Baritone and Tenor Solos

So Abram rose, and clave the wood, and went,
And took the fire with him, and a knife.
And as they sojourned both of them together,
Isaac the first-born spake and said, My Father,
Behold the preparations, fire and iron,
But where the lamb for this burnt-offering?
Then Abram bound the youth with belts and straps,
And builded parapets and trenches there,
And stretchèd forth the knife to slay his son.
When lo ! an angel called him out of heaven,
Saying, Lay not thy hand upon the lad,
Neither do anything to him.
Behold, A ram, caught in a thicket by its horns;
Offer the Ram of Pride instead of him.
But the old man would not so, but slew his son,
And half the seed of Europe, one by one.

Boys' Choir

Hostias et preces tibi Domine laudis offerimus:
tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus:
fac eas, Domine, de morte transire ad vitam.
Quam olim Abrahae promisisti,
et semini ejus.

Chorus

Quam olim Abrahae promisisti,
et semini ejus.

III. オッフェルトリウム（奉獻唱）

少年合唱

おお、主イエス・キリストよ、栄光ある王よ、
すべての信心深き死者の魂を、
地獄の罰と、深い淵から
解き放って下さい。
彼らをライオンの口から解き放って下さい。
冥府が彼らを飲み込むことがないように、
彼らが闇の中へ陥ることがないように。

合唱

旗手たる聖ミカエルが
彼らを聖なる光明へと導いてくれますように。
かつてあなたがアブラハムとその子孫に
約束なさったように。

テノール & バリトン・ソロ

そしてアブラハムは立ち上がり、森を切り裂いて進み、
火種と、刃物とを携えて行った。
そして二人が一緒に座っていたとき
長子のイサクは言った：
「お父さん、準備してありますね、火種と刃物は。
でも生贊に燃やす子羊はどこにいるのですか？」
するとアブラハムは子供を帯と紐で縛り
台を作り壕を掘って
息子を殺そうと刃物を振りかざした。
すると見よ！天から天使の声が呼びかけて言う：
「子供に手をかけてはならない。
彼に何もしてはならない。
見よ、茂みの中に角が絡んで動けない牡羊がいる。
驕り高ぶる牡羊を彼の代わりに生贊として捧げよ。」
しかしその老いた男は聞かず、自分の息子を殺した。
そしてヨーロッパの種の半分も。一人ずつ。

少年合唱

主よ、私たちはあなたに贊美の生贊と祈りとを捧げます。
それをこの魂たちのために受け入れて下さい、
私たちは今日を彼らの記念にしているのです。
彼らを死から生へと移してやつて下さい、
かつてあなたがアブラハムとその子孫に
約束なさったように。

合唱

かつてあなたがアブラハムとその子孫に
約束なさったように。

IV. Sanctus

Soprano Solo and Chorus

Sanctus, sanctus, sanctus,
Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt caeli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.
Sanctus.
Benedictus qui venit in nomine Domini.
Hosanna in excelsis.
Sanctus.

Baritone Solo

After the blast of lightning from the East,
The flourish of loud clouds, the Chariot Throne;
After the drums of Time have rolled and ceased,
And by the bronze west long retreat is blown,
Shall life renew these bodies? Of a truth
All death will He annul, all tears assuage?
Fill the void veins of Life again with youth,
And wash, with an immortal water, Age?
When I do ask white Age he saith not so:
"My head hangs weighed with snow."
And when I hearken to the Earth, she saith:
"My fiery heart shrinks, aching. It is death.
Mine ancient scars shall not be glorified,
Nor my titanic tears, the sea, be dried."

V. Agnus Dei

Tenor Solo

One ever hangs where shelled roads part.
In this war He too lost a limb,
But His disciples hide apart;
And now the Soldiers bear with Him.

Chorus

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem.

Tenor Solo

Near Golgotha strolls many a priest,
And in their faces there is pride
That they were flesh-marked by the Beast
By whom the gentle Christ's denied.

Chorus

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem.

IV. サンクトゥス(聖なるかな)

ソプラノ・ソロと合唱

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の主なる神は。
天も地もあなたの栄光に満ちています。
いと高きところにホサナ[いま、救いたまえ]。
聖なるかな。
ほむべきかな、主の御名(みな)によって来る人は。
いと高きところにホサナ[いま、救いたまえ]。
聖なるかな。

バリトン・ソロ

東から稻妻が閃めいたあと、騒がしい雲が湧きたち、
戦車に載った王座が現われた。
時の太鼓が連打してそれから止んだあと、
真鍮のラッパが長々と西へ退却の合図を吹いたあと、
命がこれらの屍を蘇らせるのだろうか？本当に神は
すべての死を帳消しにし、涙を癒せるのだろうか？
生きる者の空虚な血管を再び若さで満たせるのか？
不死の水で「齡(よわい)」を洗い流せるのか？
私が白髪の「齡」に聞くと、彼は否と答える：
「私の頭は雪の重みで垂れている」と。
私が「大地」の声を聞くと、彼女は：
「私の燃えていた心は縮んで痛い。これは死です。
私の昔の傷は褒め称えられることはありません。
私の膨大な涙、つまり海が乾くこともありません」と。

V. アニユス・デイ(神の子羊)

テノール・ソロ

弾丸の散乱した道が分岐するところですと磔刑(たっけい)になっている神、この戦争ではその彼も四肢の一つを失った。
しかし彼の弟子たちは散り散りに隠れる。
そしていまや兵士たちがいやいや彼のもとにいるのだ。

合唱

世の罪を取り除く神の子羊よ、
彼らに安息を与えたまえ。

テノール・ソロ

ゴルゴタの近くでは聖職者たちが歩き回る。
彼らの顔には誇りがある。
穏やかなキリストを拒んだ「獣」に
刻印を体に焼き付けられた、という誇りが。

合唱

世の罪を取り除く神の子羊よ、
彼らに安息を与えたまえ。

Tenor Solo

The scribes on all the people shone
And bawl allegiance to the state,

Chorus

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,

Tenor Solo

But they who love the greater love
Lay down their life; they do not hate.

Chorus

Dona eis requiem sempiternam.

Tenor Solo

Dona nobis pacem.

VI. Libera me

Chorus

Libera me, Domine, de morte aeterna,
in die illa tremenda:
Quando caeli movendi sunt et terra:
Dum veneris judicare saeculum per ignem.

Soprano Solo and Chorus

Tremens factus sum ego et timeo,
dum discussio venerit, atque ventura ira.
Libera me, Domine, de morte aeterna.
Quando caeli movendi sunt et terra.
Dies illa, dies irae, calamitatis et miseriae,
dies magna et amara valde.
Libera me, Domine.

Tenor Solo

It seemed that out of battle I escaped
Down some profound dull tunnel, long since scooped
Through granites which titanic wars had groined.
Yet also there encumbered sleepers groaned,
Too fast in thought or death to be bestirred.
Then, as I probed them, one sprang up, and stared
With piteous recognition in fixed eyes,
Lifting distressful hands as if to bless.
And no guns thumped, or down the flues made moan.
"Strange friend," I said, "here is no cause to mourn."

テノール・ソロ

あらゆる国民の律法学者たちは押しかけて
国への忠誠を誓う。

合唱

世の罪を取り除く神の子羊よ。

テノール・ソロ

しかしより大いなる愛を愛した者たちが
命をなげうつのだ。彼らは憎しみを抱くこともない。

合唱

彼らに永遠の安息を与えたまえ。

テノール・ソロ

私たちに平和を授けて下さい。

VI. リベラ・メ(私を解き放って下さい)

合唱

主よ、私を永遠の死から解き放って下さい、
その恐ろしい日に。
天と地が揺れ動き、人々が
劫火(ごうか)で裁かれる、その恐ろしい日に。

ソプラノ・ソロと合唱

来るべき怒りが、裁決が下されるので
私は震えおののいています。
主よ、私を永遠の死から解き放って下さい、
天と地が揺れ動き、
その日は怒りの日、破滅とわざわいの日、
大いなる日、しかしとても忌まわしい日です。
主よ、私を永遠の死から解き放って下さい、

テノール・ソロ

どうやら私は戦場から逃げてきたらしい、
巨大な戦争が花崗岩をくり抜いて掘った、
深く薄暗いトンネルのような穴を抜けて。
しかしそこにはうめきながら寝ている者たちもいた。
考るにも死ぬにもことが速すぎて、反応すらしない。
そして私が彼らを調べていると、一人が飛び起きて、
目を動かさず、私に気づいて憐れそうに見つめ、
まるで祝福するかのように辛そうに両手を挙げた。
銃の連射の音は消え、煙道にはうめき声もなかった。
「見知らぬ友よ」私は言った「ここに嘆く理由はない。」

Baritone Solo

“None”, said the other, “save the undone years,
The hopelessness. Whatever hope is yours,
Was my life also; I went hunting wild
After the wildest beauty in the world,
For by my glee might many men have laughed,
And of my weeping something had been left,
Which must die now. I mean the truth untold,
The pity of war, the pity war distilled.
Now men will go content with what we spoiled,
Or, discontent, boil bloody, and be spilled.
They will be swift with swiftness of the tigress,
None will break ranks,
though nations trek from progress.
Miss we the march of this retreating world
Into vain citadels that are not walled,
Then, when much blood had clogged
their chariot-wheels
I would go up and wash them from sweet wells,
Even from wells we sunk too deep for war,
Even the sweetest wells that ever were.

I am the enemy you killed, my friend.
I knew you in this dark; for so you frowned
Yesterday through me as you jabbed and killed.
I parried; but my hands were loath and cold.”

Baritone and Tenor Solos

“Let us sleep now...”

Boys's Choir, Chorus and Soprano Solo

In paradisum: deducant te Angeli:
in tuo adventu suscipiant te Martyres,
et perducant te in civitatem sanctam Jerusalem.
Chorus Angelorum te suscipiat,
et cum Lazaro quondam paupere
aeternam habeas requiem.

Boys's Choir

Requiem aeternam dona eis Domine:
et lux perpetua luceat eis.

Chorus

Requiescant in pace. Amen.

バリトン・ソロ

「ないな」と相手は言った。「失われた年月と失望以外には。どんな希望を君が持っているとしても私の人生も同じだった。私は荒々しく狩りに出てこの世で最も荒々しく美しい獲物を追った。というのも、私の喜ぶさまを見て多くの人が笑い、私が泣いたときには何かが残った。それらもまた死ぬしかない。それは語られることのなかった真実、戦争の悲しみ、戦争が蒸留し抽出した悲しみだ。いま人々は私たちが汚したもので満足して歩むか、満足せず血のように沸き立った拳銃、たれ流されるかだ。奴らは速い。雌の虎のような速さだ。たとえ国々が進歩から後ずさりしても隊列を崩す者はいない。この退歩する世界が城壁もなく空虚な要塞の中へ進む行進に加われなかったとしたら奴らの戦車の車輪がたくさんの血で固まったとき私は近づいて甘い井戸の水で洗おう。戦争のために私たちが沈みすぎた井戸からでも。今までに存在したうちで最も甘い井戸からでも。」

「私は君が殺した敵だ、友よ、この闇の中でも君がわかった。昨日君が私を突き刺して殺したとき、君は私を見て顔をしかめていたから。私はかわそうとした。だが私の両手は冷たく、動こうとしなかった。」

バリトン & テノール・ソロ

「いまは眠ることとしよう。」

少年合唱、合唱とソプラノ・ソロ

天使たちがあなたを楽園に導いてゆきますように。
殉教者たちがあなたの到着を迎え、
そして聖なる街エルサレムにあなたを導きますように。
天使の合唱があなたを受け入れ、
かつて貧しかったラザロとともに
あなたが永遠に安息を得られますように。

少年合唱

主よ、彼らに永遠の安息を授(さず)けて下さい。そして絶えることのない光が彼らを照らすようにして下さい。

合唱

彼らが安らかに休めますように。アーメン(まことに)。